

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401269		
法人名	有限会社 薫風		
事業所名	グループホーム 陽だまりの家		
所在地	長崎県南島原市里坊109番地		
自己評価作成日	令和4年11月4日	評価結果市町村受理日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地			
訪問調査日	令和4年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、一人ひとり、尊重した暮らしが出来る様に生活歴の把握、思いや意思の把握に努め生きがいをもって自分らしく自由でのびのびと生活をしたい事を理念に掲げ、常に利用者様を主としたケアに取り組んでいます。家庭的な雰囲気の中で職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりを持つようにし落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、心地よき温かい生活、安心、安全な生活が送れるように努めています。
石川医院と連携をとり、感染症予防対策として職員・利用者様のワクチン接種施行。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、紅梅棟・薄雲棟・若菜棟の3ユニットで構成し、ホールの窓から普賢岳や近くの田畑が見渡せる自然豊かな場所に立地している。共用空間には、観葉植物や季節の飾りのほか、タペストリー等を飾り、ホーム内でも緑や季節を感じることができる。コロナによる感染対策を講じ、床やドアノブ、手すり等の要所を消毒液を用いて清掃し、衛生面に留意している。職員は、毎年、自己評価を通じてケアの振り返りを行うと共に、感染委員会・身体拘束委員会・事故防止委員会・褥瘡委員会を通じて毎月目標を設定した勉強会を行い、入居者一人ひとりの思いに沿った暮らしを継続できるよう実践に努めている。職員と一緒に育てた野菜を収穫し、芋ご飯にして美味しく頂いたり、バナナケーキ・たこ焼き・プリン・かき氷揚げたてドーナツなど手作りのおやつを提供し、食を通じて入居者に喜んでもらえるよう取り組んでいる。天候の良い日には庭で花壇を眺め、おやつを食べたり職員と一緒に芋ほりを楽しむなど外気に触れ、コロナ禍でも可能な範囲で入居者の気分転換を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 若菜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所、休憩室に掲示し、職員全員が共有出来る様にしている。	理念をホームの要所に掲示すると共に、職員会議の際にも確認し意識づけを図っている。職員は、毎年、自己評価を通じてケアの振り返りを行うと共に、感染委員会・身体拘束委員会・事故防止委員会・褥瘡委員会を通じて毎月目標を設定した勉強会を行い、入居者一人ひとりの思い沿った暮らしを継続できるよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内や、地区の行事等に参加している。近況では清掃活動以外は、コロナの影響で行事等の中止や外出支援が出来ていない。	ホームは町内会に加入し、地域の行事にも参加していたが、コロナ禍の為、現在は職員が町内の清掃のみ参加し、回覧版を通じて地域の情報を得ている。ホームの夏祭りや敬老会は、コロナ禍が収束したら家族・地域の方にも参加してもらい、交流を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページやパンフレットによるGHの案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍により行政職員への通達になっている。 入居の状況や健康状態、通院の有無や委員会の取り組みなど報告している。	運営推進会議は、現在、コロナ禍により入居者の状況、行事計画、コロナ感染対策など、運営推進会議の委員である職員と話し合った内容を会議録にまとめ、行政の担当職員へ報告している。	コロナ禍により運営推進会議で話し合った内容を行政職員へ報告しているが、他の委員にも諮り、各委員から返信された意見やホームの回答等を記載した議事録を作成することが望ましい。また、コロナ禍で来訪できない家族には運営推進会議録を送付するなどし、より運営の透明性を図るよう取り組むことに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の申請、生活保護手続き、災害設備の設置、推進会議を通じ入居状況などの報告をしている。	行政の担当職員へ運営推進会議録を送付し、ホームの状況や取り組みについて報告している。管理者は介護保険の更新手続きや、生活保護手続き等、市役所や地域包括支援センター等の関係機関へ手続きを行い、必要な指示を仰いでいる。行政機関よりコロナワクチン接種に関する情報を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し委員会を中心とした研修会を定期的に開催し意識と理解を高め身体拘束ゼロを目指している。	3か月毎に身体拘束委員会を開催している。職員は、毎月ケアに関する目標を設定し、身体拘束に該当する具体的な行為を理解するようテストを受けて振り返るなど、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を開催している。また、取り組みとして、職員会議で月目標としたり、日々の業務中で気付けたことは注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方とも話し合い、必要に応じて活用できるように務めている。又、分からない事などは市の担当者へ尋ねる様にしている。以前は研修会にも参加していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、又は、解約においては家族等の考えや疑問点を傾聴し真摯に受け入れ対応するようにしている。又、説明を十分に行い理解したうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、ご要望の受付箱の設置やアンケートを実施している。また、当施設担当者、相談員等にも聞き取りを行っている。	コロナ禍により家族との面会は、ホールの窓越しで行なっている。毎月発行する「陽だまりの家新聞」は、入居者の行事の様子を掲載しており、家族の楽しみとなっている。年1回、家族へアンケート行い、家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交換や提案できる場を設けてある。	毎月の職員会議を通じて職員の意見や要望を聞くようにしている。長年勤務の職員が多く、職員間の関係も良好で、互いに連携して入居者の支援に努めている。管理者が、前もって職員が希望する休暇を聞き、勤務体制の調整を行うほか、資格取得を希望する職員には勤務体制を配慮するなど、職員へのバックアップ体制を講じている。	今年度よりハラスメント対策の強化が求められており、職員が運営に関する意見や提案を円滑に表出できる環境を整備するためにも、ハラスメントマニュアルの作成や相談窓口の設置、職員研修等、今後の取り組みや環境整備に期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善による、環境整備の増設、給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの状況にもよるが関連施設による合同研修会や合同委員会の参加を出来る限り行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で会議は開催されていないが、通知や電話にて情報を得ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、本人の要望や不安な事を傾聴し安心できる生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意思など聞き入れながらサービスを行うことで信頼関係を作るよう努めている。現在はコロナウイルス感染症対策の為、主に電話にて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がどのような支援を必要としているかたしかめ、必要なサービスから対応しよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する上で、日常の生活の中で関係を築いていく様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要事項などある場合、家族等に連絡を行ったり、面会時に本人の今の状況などを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、規模は小さくなったが敬老会か納涼会などは行い、出来るだけ施設内の交流を行っている。	入居者の家族や友人との面会を感染対策に留意して行っている。最近では、孫が成人し着物を窓越しで面会ができるよう工夫した。遠方の家族より結婚式の写真を送信してもらい、タブレットで見れるよう支援するなど、コロナ禍でも可能な範囲で馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆様が集える場所を提供できるように務めている。食堂での会話やレクリエーションなど時間を決めず自由に過ごしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、相談に応じ、ご家族や本人の要望に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活のリズムが崩れない様に、状況や経緯を聞き取り本人、御家族と話し検討している。	職員は10時と15時にお茶を飲みながら入居者と会話し、入居者の話を聞いて本人の思いや意向を把握している。医療機関から入居した方で、リハビリを受けたいとの思いや、デイサービス事業所から入居した方から、広い風呂に入りたいといった思いを聞き取るなど、家族とも相談しながら入居者の希望、意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣や生活環境を作れる様、馴染みな物を使用し趣味活動の継続が出来る様に本人やご家族に十分話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活、グループホームでの生活をみて、出来る事、出来ない事を把握し自力支援に務めたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしてもらうために色々な意見を聞きながらケアプランを作成し介護を行って行っている。	入居の際、各棟の担当職員が入居者及び家族の希望を聞き取り、日々の生活記録に残している。モニタリングや担当者会議を通じて話し合い、ケアマネージャーが3棟27名分の介護計画を作成している。家族へ介護計画を説明し意向を確認すると共に、後日介護計画を郵送して同意を得ている。新規入居者の介護計画は入居後1か月で見直しを行い、本人の意向に沿った内容であるか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、違いや変化がある時は、見直しなどを行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのその時の状況に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外のイベント等には参加できていない。又、学生の研修などもコロナ感染の状況を見ながら出来る限り受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、施設関連の病院をかかりつけ医にしてもらっているが、専門的な事例に関してはかかりつけ医を受診されている。	入居後のかかりつけ医は、入居時に入居者・家族へ説明し、ホームの協力医療機関への移行を依頼している。他科への受診はホームの協力医療機関の許可を得て職員が同行支援を行っている。医療機関で円滑に受診できるよう職員が個人ファイルを持参し同行支援を行っている。服薬の際は職員がダブルチェックを行い、誤薬が無いよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により日頃のバイタル測定や状態観察をし異常時は直ぐ医療機関に状態報告をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、病院との情報交換を行い利用者や家族の意見を確認し再入所や今後の予定など検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	石川医院と連携を行い、重度化や終末期を向える前には、家族とDrが話し合い希望に沿った支援を出来る様に取り組んでいる。	入居者が重度化や終末期に至った場合は、医師・家族・看護師・職員間で相談し、チームで支援の方針を決定している。入居者が食事が摂れなくなった場合は、医師の判断のもと協力医療機関へスムーズに入院できるよう連携している。看取り指針を整備し、家族等の希望に応じ看取り支援を行う予定である。	勤務歴が永い職員が多く看取りの支援も慣れているとのことであるが、新人職員や経験の浅い職員の多くが看取り介護を行う中で不安を抱えることを踏まえ、看取り介護の流れ・手順や状態に応じた対応例などを習得できるよう看取り介護の研修を計画的に実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、勉強会で学び、処置のやり方はその都度石川医院と連携をとり対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	5月と11月に消防訓練を行っているが、コロナウイルス感染症対策の為、消防所の立会いは出来ていない。	年2回、夜間帯の火災を想定した避難訓練を、紅梅棟・薄雲棟・若菜棟で連携・協力しながら実施している。消防用設備等点検を行い、点検結果報告書を南島原消防署へ報告し、火災を未然に防ぐための対策を講じている。令和4年5月には台風時の道路冠水対策として土嚢作りや避難経路の確認を実施している。	避難先で入居者情報を提供できるよう緊急連絡先等の一覧を準備しているが、入居者本人の情報掲載が十分とは言えない。例えば、生年月日・主治医・介護保険情報・医療保険情報を加えるなど、避難先で円滑に情報提供できるよう入居者の必要な情報を加え、迅速に持ち出せるよう取り組むことに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を理解する事や立場を考える事を優先し、細かい拜領を行った言葉かけの対応を行っている。	入居の際、家族へ入居者の個人情報保護についての説明や、写真の掲載に関する同意を得ている。職員は丁寧な言葉使いに努め、不適切な言葉使いがあった場合は、その都度気づいた職員が互いに注意するようにしている。本年3月には接遇についての研修会へ参加し、職員への意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉かけを行い、要望、希望を伺い、寄り添った行動を行う様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望や体調などを確認しながら一人ひとりに寄り添ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の準備など本人の意思に沿った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜等を栽培し、一緒に収穫したのを食事で提供などをして楽しく食事を摂っていただいた。	職員間で検討して献立を立て、入居者の嚙下状態に応じて刻み食・ミキサー食を提供している。職員と一緒に育てた旬の野菜を収穫し、芋ご飯にして提供するなど食事が楽しめるよう取り組んでいる。職員は、バナナケーキ・たこ焼き・プリン・かき氷・揚げたて・ドーナツなど、手作りおやつを提供し、入居者に喜んでもらえるよう工夫している。入居者の残存能力を活かしてテーブル拭きなど行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力を理解し、食事形態も考え、栄養管理に努めている。見守りを行い、自分で食べる事が出来るよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、見守りや一部のみ介助し出来ない方は、職員の方で口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録し、出来るだけ自分で行けるようにタイミングをみて、声をかけたり、無理な方には付き添い支援を行っている。	職員は排泄記録表を残し、入居者個々の排泄パターンを把握してトイレに誘導してトイレで排泄できるように支援を行っている。夜間帯の排泄は、本人の尿量を把握してオムツ・パットの大きさを適宜変えるよう配慮している。その方の状態に応じて夜間帯にポータブルトイレにて排泄支援を行っており、本人が安眠できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にバナナや牛乳を提供し、自然排便が出来る様に努めている。なかには、Drに報告し、薬の商法があり、服用すると事により排便されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿うように努めているが、その日の状況により難しいこともある。	週2回を基本として入浴支援を行っている。入浴が楽しめるよう柚子湯や菖蒲湯をしたり、入居者の希望により入浴剤を入れて入浴支援を行っている。入居者が浴槽にゆっくりと浸かって入浴できるよう支援している。病院受診や汚染があった場合は随時入浴できるよう配慮している。重度化した入居者には、職員2名で介助し、安全に入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を観察し、簡単な手作業を手伝ってもらったり、軽く体を動かす運動をしたり、好みに動いてもらい、よく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの症状を把握し、薬の目的、副作用、用法、用量について、理解するよう努める。症状に変化が見られた時は医院と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他の方々と話が出来るように間に入って会話したり、洗濯物を一緒に畳んでみたりテレビを観て、話をしたり、気分転換が出来る様に支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出する事が難しく敷地内の花壇で花を眺めながら、おやつを食べたり、畑の芋ほりをする事で、支援を行っている。家族の方がにも理解を得て、窓越しでの面会を行っている。	コロナ禍により外出を自粛しているが、受診時に入居者宅の前を徐行し見てもらうなど可能な範囲で支援を行っている。入居者は天候の良い時には庭に出て花壇を眺めたり、おやつを食べるなどのほか、職員と一緒に芋ほりを楽しむなど、外気に触れ気分転換を図っている。	
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方が、管理されており、必要に応じて家族の方と相談し、購入(立替にて)、または、家族の方が購入し持ってこられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に沿って、支援を行い、電話がかかってきても取り次いで、話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔に努め、季節を感じられる様、花を飾ったり、飾り物を作り壁に飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	ホールの窓から普賢岳や田畑が見渡せ、自然豊かな場所に立地している。共用空間には、観葉植物や季節の飾りのほか、タペストリー等を飾り、ホーム内でも緑や季節を感じることができる。コロナの感染対策を講じ、床やドアノブ、手すり等の要所を消毒液を用いて清掃し、衛生面に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	だいたい自分の席が決まっていて、椅子に座り、テレビを見たり、新聞を読んだり、自分の居室で横になったりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた馴染みのあるもの、使い慣れたものを使っただき、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、エアコン・クローゼット・耐火カーテン・耐火レースを取り付けている。馴染みの使い慣れたペット・テレビ・家族の写真・整理ダンス・寝具等が持ち込まれ、動線に配慮して家具を設置している。居室は毎日清掃し、エアコンは、季節の変わり目や汚れに気づいた際に清掃し、居室で入居者が居心地の良く過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを、使うことで安心して歩行できるよう工夫している。場所が分からない時は、表示して工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 薄雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所、休憩室に掲示し、職員全員が共有出来る様にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内や、地区の行事等に参加している。近況では清掃活動以外は、コロナの影響で行事等の中止や外出支援が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページやパンフレットによるGHの案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍により行政職員への通達になっている。 入居の状況や健康状態、通院の有無や委員会の取り組みなど報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の申請、生活保護手続き、災害設備の設置、推進会議を通じ入居状況などの報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し委員会を中心とした研修会を定期的に行い意識と理解を高め身体拘束ゼロを目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を開催している。また、取り組みとして、職員会議で月目標としたり、日々の業務中で気付けたことは注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方とも話し合い、必要に応じて活用できるように務めている。又、分からない事などは市の担当者へ尋ねる様にしている。以前は研修会にも参加していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、又は、解約においては家族等の考えや疑問点を傾聴し真摯に受け入れ対応するようにしている。又、説明を十分に行い理解したうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、ご要望の受付箱の設置やアンケートを実施している。また、当施設担当者、相談員等にも聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交換や提案できる場を設けてある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善による、環境整備の増設、給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの状況にもよるが関連施設による合同研修会や合同委員会の参加を出来る限り行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で会議は開催されていないが、通知や電話にて情報を得ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、本人の要望や不安な事を傾聴し安心できる生活を送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意思など聞き入れながらサービスを行うことで信頼関係を作るよう努めている。現在はコロナウイルス感染症対策の為、主に電話にて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がどのような支援を必要としているかたしかめ、必要なサービスから対応しよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する上で、日常の生活の中で関係を築いていく様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要事項などある場合、家族等に連絡を行ったり、面会時に本人の今の状況などを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、規模は小さくなったが敬老会か納涼会などは行い、出来るだけ施設内の交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆様が集える場所を提供できるように務めている。食堂での会話やレクリエーションなど時間を決めず自由に過ごしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、相談に応じ、ご家族や本人の要望に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活のリズムが崩れない様に、状況や経緯を聞き取り本人、御家族と話し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣や生活環境を作れる様、馴染みな物を使用し趣味活動の継続が出来る様に本人やご家族に十分話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活、グループホームでの生活をみて、出来る事、出来ない事を把握し自力支援に務めたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしてもらうために色々な意見を聞きながらケアプランを作成し介護を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、違いや変化がある時は、見直しなどを行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのその時の状況に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外のイベント等には参加できていない。又、学生の研修などもコロナ感染の状況を見ながら出来る限り受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、施設関連の病院をかかりつけ医にしているが、専門的な事例に関してはかかりつけ医を受診されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により日頃のバイタル測定や状態観察をし異常時は直ぐ医療機関に状態報告をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、病院との情報交換を行い利用者や家族の意見を確認し再入所や今後の予定など検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	石川医院と連携を行い、重度化や終末期を向える前には、家族とDrが話し合い希望に沿った支援を出来る様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、勉強会で学び、処置のやり方はその都度石川医院と連携をとり対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	5月と11月に消防訓練を行っているが、コロナウイルス感染症対策の為、消防所の立会いは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を理解する事や立場を考える事を優先し、細かい拜領を行った言葉かけの対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉かけを行い、要望、希望を伺い、寄り添った行動を行う様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望や体調などを確認しながら一人ひとりに寄り添ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の準備など本人の意思に沿った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜等を栽培し、一緒に収穫したのを食事で提供などをして楽しく食事を摂っていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や体調などに宇治田栄養や水分補給を行っています。また水分俾関しては、季節などにも考慮し脱水症状にならないよう、十分に摂取していただくよう支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でブラッシング出来る方はしていただき、その後再度ブラッシング支援を行っています。また困難な方にはスポンジやガーゼなど使用し口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、声掛けなど行い誘導することにより、トイレでの排泄をしていただくよう支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維のある食べ物などを摂っていただき、軽い運動をして頂く事により、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調に合わせた入浴支援やゆっくり楽しみながら入浴して頂ける支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を把握し、衣類や寝具、室温等を調整し快適に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を確認し職員対応にて確薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのADLに応じて洗濯物たたみやお盆拭きをして頂いたり、簡単なレクリエーションに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でもある為、現在外出支援は見合わせている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や管理は施設では、行っていない。ご家族にお任せしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様を電話口へ案内している。直ぐに出ることが出来られない方でも、時間をおいてかけ直す等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明かりはできるだけ、電球色の者を使い、観葉植物を置いたり、季節、時候に合わせて壁の飾りつけを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は、同じ席に座っていただいているが、その他の時間は隣に移動して話されたり、自室に戻って頂いたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族の希望を伺い、私物を持ち込んでいただき自分だけの部屋と思ってもらえる提案をさせていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力の弱い方の居室入り口には大きく名前を表示して、分かりやすく案内している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 紅梅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所、休憩室に掲示し、職員全員が共有出来る様にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内や、地区の行事等に参加している。近況では清掃活動以外は、コロナの影響で行事等の中止や外出支援が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページやパンフレットによるGHの案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍により行政職員への通達になっている。 入居の状況や健康状態、通院の有無や委員会の取り組みなど報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の申請、生活保護手続き、災害設備の設置、推進会議を通じ入居状況などの報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し委員会を中心とした研修会を定期的に行い意識と理解を高め身体拘束ゼロを目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を開催している。また、取り組みとして、職員会議で月目標としたり、日々の業務中で気付けたことは注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方とも話し合い、必要に応じて活用できるように務めている。又、分からない事などは市の担当者へ尋ねる様にしている。以前は研修会にも参加していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、又は、解約においては家族等の考えや疑問点を傾聴し真摯に受け入れ対応するようにしている。又、説明を十分に行い理解したうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、ご要望の受付箱の設置やアンケートを実施している。また、当施設担当者、相談員等にも聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交換や提案できる場を設けてある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善による、環境整備の増設、給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの状況にもよるが関連施設による合同研修会や合同委員会の参加を出来る限り行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で会議は開催されていないが、通知や電話にて情報を得ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、本人の要望や不安な事を傾聴し安心できる生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意思など聞き入れながらサービスを行うことで信頼関係を作るよう努めている。現在はコロナウイルス感染症対策の為、主に電話にて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がどのような支援を必要としているかたしかめ、必要なサービスから対応しよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する上で、日常の生活の中で関係を築いていく様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要事項などある場合、家族等に連絡を行ったり、面会時に本人の今の状況などを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、規模は小さくなったが敬老会か納涼会などは行い、出来るだけ施設内の交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆様が集える場所を提供できるように務めている。食堂での会話やレクリエーションなど時間を決めず自由に過ごしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、相談に応じ、ご家族や本人の要望に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活のリズムが崩れない様に、状況や経緯を聞き取り本人、御家族と話し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣や生活環境を作れる様、馴染みな物を使用し趣味活動の継続が出来る様に本人やご家族に十分話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活、グループホームでの生活をみて、出来る事、出来ない事を把握し自力支援に務めたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしてもらうために色々な意見を聞きながらケアプランを作成し介護を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、違いや変化がある時は、見直しなどを行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのその時の状況に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外のイベント等には参加できていない。又、学生の研修などもコロナ感染の状況を見ながら出来る限り受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、施設関連の病院をかかりつけ医にしているが、専門的な事例に関してはかかりつけ医を受診されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により日頃のバイタル測定や状態観察をし異常時は直ぐ医療機関に状態報告をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、病院との情報交換を行い利用者や家族の意見を確認し再入所や今後の予定など検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	石川医院と連携を行い、重度化や終末期を向える前には、家族とDrが話し合い希望に沿った支援を出来る様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、勉強会で学び、処置のやり方はその都度石川医院と連携をとり対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	5月と11月に消防訓練を行っているが、コロナウイルス感染症対策の為、消防所の立会いは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を理解する事や立場を考える事を優先し、細かい拜領を行った言葉かけの対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉かけを行い、要望、希望を伺い、寄り添った行動を行う様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望や体調などを確認しながら一人ひとりに寄り添ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の準備など本人の意思に沿った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜等を栽培し、一緒に収穫したのを食事で提供などをして楽しく食事を摂っていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、体重、BMIを把握し、低栄養の方の食事量を特に注意しながら少しでも食べて頂けるように、好みの食べ物を把握し提供できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台へ誘導し口腔ケアを行ってもらっている。洗い残しがないように見守り声掛けを行っている。介助が必要な方でも、義歯の取り外しなど、出来る事は行ってもらっている。全介助の方には、ガーゼ、スポンジブラシ等を使用し口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、声掛け、誘導を行い、出来る限り本人の力で排泄を行ってもらっている。汚染行為などある為、見守りを行っている。またパットのズレなど無いか確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のカウントを行い、それぞれの排便状況を把握している。また毎朝牛乳を提供したり、軽い運動を行っている。また、石川医院と連携をとり、カマグ等を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に二回は確実に入っていただき、清潔な状態を保てるようにしている。入浴好きな方、嫌いな方もおられ、それぞれにあった声掛け、対応をし気分よく入っていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや排泄記録、夜間用パットなどを使用し就寝、起床、排泄の時間を把握し良民出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの処方箋と定期薬の確認、お薬手帳の管理などをして支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の利用者の割合が多く台所関係の仕事や洗濯物の仕事を主に手伝ってもらっている。また、室内に植物を多く置きお世話をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は美容室や買い物など外出支援を行っていたがコロナの影響にて、出来ない状況である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望により代理で購入をしている。代金、お釣りの確認は本人、職員2名で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は、手渡す。できる様であれば、電話や手紙にて返信できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや壁紙などを季節ごとに変化させ行事や慣わしなど思い出し話題になる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室の空間を利用して、好きな場所に自由に居られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自分が使用されていた物、衣類に寝具などを持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の運動機能や認知力を考え、歩ける方も車いすのなど使用される方も安全に使用、共有出来る様にしている。(椅子の数を減らすなど)		